

実践臨床医学

責任者・コーディネーター	総合診療医学分野 下沖 収 教授		
担当講座・学科（分野）	医療安全学講座、睡眠医療学科、看護学部看護専門基礎講座、消化器内科肝臓分野、総合診療医学分野		
担当教員	肥田 圭介 教授、櫻井 滋 教授、遠藤 龍人 教授、鈴木 悠地 助教、井上 和男 非常勤講師		
対象学年	4	区分・時間数	講義 8コマ 12.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

・学習方針（講義概要等）

医師として、プロフェッショナルリズムの上にたち医療の社会性を十分に理解することが必要不可欠である。適切な医療を提供するための基本となる医療安全、医療関連感染制御について理解を深めることが必要である。また、いかなる医療現場（研究機関、高度医療機関、地域医療）にあっても医学の進歩と社会福祉の増進を図る態度が求められる医師にとって不可欠な臨床疫学や臨床研究の基礎について学び、必要なKnow-Howを習得する。

・教育成果（アウトカム）

医療安全、医療関連感染制御について学ぶことで、安全で質の高い医療を遂行する医師としての普遍的な態度について説明できる。臨床疫学と臨床研究の基礎を学ぶことで、いかなる場面においても医師として生涯にわたり求められるリサーチマインドの重要性について説明できる。

(ディプロマ・ポリシー: 1,2,3,7,8)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	実証に基づく医療（EBM）の実践に必要な臨床疫学の基本的概念を説明できる。
2	医学研究の倫理について説明できる。
3	医療安全、医療事故の基本概念と実践について説明できる。
4	医療関連感染制御における標準予防策、経路別感染対策、医療従事者の感染予防について説明できる。
5	医療の社会性、医師のプロフェッショナルリズムについて説明できる。

・講義場所

講義：東1-D講義室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号
講義	5/20(水)	1	消化器内科肝臓分野	鈴木 悠地 助教	臨床疫学総論・EBMの手法	1
講義	5/20(水)	2	看護学部看護専門基礎講座	遠藤 龍人 教授	臨床疫学，文献の批判的吟味	1
講義	5/27(水)	1	医療安全学講座	肥田 圭介 教授	医療安全について	3,5
講義	5/27(水)	2	看護学部看護専門基礎講座	遠藤 龍人 教授	臨床疫学，臨床試験と研究倫理	1,2
講義	6/4(木)	1	総合診療医学分野	井上 和男 非常勤講師	教員の実体験に基づくReal case based learning	5
講義	6/4(木)	2	総合診療医学分野	井上 和男 非常勤講師	地域医療の現場で行うPractice based research	5

講義	6/8(月)	1	睡眠医療学科	櫻井 滋 教授	医療関連感染制御について	4
講義	6/8(月)	2	睡眠医療学科	櫻井 滋 教授	医療関連感染制御について	4

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	ステップアップEBM実践ワークブック	名郷直樹	南江堂	2009
推薦図書	医学的研究のデザイン 第4版	SB Hulley 訳 木原雅子	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2014
推薦図書	医学と仮説	津田敏秀	岩波書店	2011
推薦図書	医療安全学	森本 剛	篠原出版新社	2010
推薦図書	臨床疫学 EBM実践のための必須知識 第3版	RH Fletcher (福井次矢 訳)	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2016
推薦図書	へき地・離島医療マニュアル (web資料) (http://www.hekichi.net/index.php/bunsho/bunsho_c)	地域医療振興協会	地域医療振興協会	
参考書	岩手医科大学 医療安全対策マニュアル (第13版)	医療安全管理部	岩手医科大学	
参考書	岩手医科大学 感染対策基幹マニュアル	医療安全管理部 感染対策室	岩手医科大学	

・成績評価方法

総括評価：試験による。

形成的評価：講義中に小テスト、口頭試問を行い評価し、学生にフィードバックする。

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

・教育資源

講義室、PC、プレゼンテーションソフトウェア、参考書

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン VAIO Pro13mk2 一式	1	講義資料作成用